

各委員会の活動報告について

1. 環境パフォーマンス評価手法検討委員会

1) 活動方針

- (1) ロジスティクス活動の環境負荷を低減するため、荷主企業と物流企業等が相互に連携して、環境負荷を定量的に把握・評価できる、標準的な環境パフォーマンス算定方法を整備する。
- (2) 標準的な環境パフォーマンスの算定方法を広く公開し、関係者に普及する。

2) 2005年度の検討内容と成果

- (1) 改正省エネ法の判断基準に対する意見・要望の提示
 - i) 判断基準に定められる算定方法として、(改良)トンキロ法に加え、燃料法、燃費法を追加することを提案し、採用された。
 - ii) 燃料法の算定にあたっては、荷主企業と物流事業者の連携を強化する施策を要望
 - iii) トンキロ法については、算定の初期段階における代替手法として容認しつつ、削減効果が見える燃料法への段階的な移行が目指されることを要望
- (2) 二酸化炭素排出量按分方法の標準化案の提示
 - i) 標準手法(現在)：輸送トンキロ按分
月ごと等まとまった集計単位で
二酸化炭素排出量×[その荷主の輸送量(トンキロ)/全荷主の輸送量(トンキロ)]
 - ii) 代替手法：トン按分
月ごと等まとまった集計単位で
二酸化炭素排出量×[その荷主の輸送重量(トン)/全荷主の輸送重量(トン)]

※按分結果(値)の精度の高い「輸配送区間別トン按分」は、現在の環境では相当の困難が予想されるため、今後目標とする標準とし、現状では上記2つを標準化とする。
- (3) 『二酸化炭素排出量算定ガイド(Ver.2)/輸配送/トラック輸送版』の作成

3) 今後もさらに検討を要する課題など

- ① 経営指標とロジスティクス活動の関連付けの検討
- ② 対象として、包装資材及び鉄道などの他輸送モードの環境負荷排出量算定方法の検討
- ③ 算定に必要なデータ(諸係数)整備をはじめ、関係者に対する提案、要望など

→「自動車輸送統計調査」の調査項目等に関する意見書を国土交通省総合政策局 情報管理部 交通調査統計課に提出
(2006年3月2日)

2. 源流管理による環境改善委員会

1) 活動方針

- (1) ロジスティクスの分野から環境負荷低減に取り組むため、荷主企業のロジスティクス・物流部門、物流企業として現状の物流活動をチェックし、見直すための視点とその内容をまとめる。
- (2) 合意された内容はマニュアル形式に整理し、関係者の環境活動を支援する。

2) 検討成果

- (1) 『ロジスティクス源流マニュアルver.1』(2004年度)
一人ひとりがどのように意識を変えて行動をとるか、それに基づき企業が組織としてどのように対応をすればいいか、そして自社の物流分野において具体的に何をすればいいかといった源流管理の考え方と施策の提示
- (2) 『ロジスティクス源流マニュアルver.2』(2005年度)
*モーダルシフト推進チェックシート・資料集
モーダルシフトを推進するため、ロジスティクス・物流部門の視点からのPDCAの検討プロセスに沿ったチェックシート、資料集としてまとめた。
 - i) チェックシートの全体のフロー
 - I PLAN～実施の可否までのオプション構築
 - II DO～計画から実施までのプロセス
 - III CHECK～実施後の進捗把握とフォローアップ
(ACTION…“III CHECK”を受けて、改善をすすめるとともに、新たな“I PLAN”立案につなげる)
※チェックシートでは、それぞれの項目について詳細に解説がされている。
 - ii) 資料集の構成
 - PLAN1 輸送機関の選択
 - PLAN2 陸上輸送手段の選択
 - PLAN3 陸上輸送ルートを選択
 - PLAN4 輸送事業者の選定
 - PLAN5 運行パフォーマンス向上

3) 今後もさらに検討を要する課題など

- (1) 荷主企業のロジスティクス・物流部門が他部門、特に「企画・設計部門」へ協力要請する物流に係わる施策の整理など
- (2) 各企業が環境負荷低減活動をすすめていただけるような道具と情報の提供。特に、どれほど環境に負荷をかけているか定量的に把握できる情報の提供

3. 省資源ロジスティクス推進委員会

1) 活動方針

- (1) 省資源・省エネルギーの視点から、サプライチェーンを構成する荷主企業（発荷主・着荷主）と物流企業等が一体となって、物流の環境負荷を低減するため、物流諸活動の事例収集を行い、その内容を整理する。
- (2) 荷主企業（発荷主・着荷主）と物流企業等が一体となって課題解決のための方向性をまとめ、関係者に提案する。合意された内容はマニュアル形式に整理し、関係者の環境活動を支援する。

2) 検討成果

- (1) 『省資源ロジスティクス事例集』（2004年度）
- (2) 取引条件見直しによる物流の環境負荷低減効果の調査（2005年度）
 - ① 既存文献による取引条件見直しとその効果、② 委員会メンバーへの物流実態と取引条件のアンケート調査、③ 加工食品及びパソコン・家電製品の物流実態と取引条件（ヒアリング調査）の結果を受けて、優先的に見直しに取り組むべき取引条件と取引条件見直しのシナリオの検討を行った。
 - i) 優先的に見直しに取り組むべき取引条件
アンケート調査やヒアリング調査、環境改善効果の面から優先的に見直しに取り組むべき取引条件として、「多頻度小口配送」、「時間指定納品」、「リードタイム」があげられた。
 - ii) 取引条件見直しのシナリオ
 - ア) 気づき
 - イ) 可視化
 - ウ) 方策
 - エ) サポート体制
 これらの内容を『取引条件見直しによる物流の環境負荷低減効果に関する調査報告書』としてまとめた。

3) 今度もさらに検討を要する課題など

企業間の取引条件の問題、課題の掘り下げと効果測定、改善シナリオの深化など

4. リバーズロジスティクス調査委員会

1) 活動方針

- (1) ロジスティクスの視点から、今後本格的に必要とされるリユース、リサイクルに関わる物流のあるべき姿を描くために調査活動を行い、その結果を公開する。
- (2) 消費者における還流管理の促進を含め、リバーズロジスティクスの構築が可能となる環境整備を促進するためのガイドラインをまとめ、関係者に対して提言を行う。

2) 活動内容

委員会メンバーの問題意識、業界特性を考慮して、①家電・OA、②自動車、③食品、④物流（包装資材）の4分野を選定、それぞれの分野で調査をすすめた。

3) 活動成果

- (1) 全体総括
 - i) リバーズロジスティクスを取り巻く背景、環境等
 - ii) 企業の課題（共同化推進及び情報化推進）
 - iii) 行政の課題（企業の効率的活動を推進する法令及び手続きのあり方等）
*廃棄物処理法規制への要望事項の整理
現在の廃棄物処理法の規制は不法投棄防止を主目的としているため、再資源化への配慮が少ないことから、7項目について13の要望をまとめた。今後、関係行政機関との意見交換を目指したい。
- (2) 各分科会の調査報告の骨子
 - i) 家電・OA機器分野
・静脈物流共同化プラットフォームを推進するための施策の提示
 - ii) 自動車分野
・リサイクル部品利用促進のための施策の提示
・廃タイヤのリサイクル率向上のための施策の提示
 - iii) 食品分野
・効率的なリサイクルを推進するための施策の提示
*流通段階におけるロジスティクスの重要性の訴求
 - iv) 物流分野
・木製パレットのリサイクル率向上のための施策の提示
・宅配包装資材のリターナブル化に向けた施策の提示
これらの内容を『リバーズロジスティクス調査報告書（Ver.2）』としてまとめた。

4) 今度さらに検討を要する課題など

業界連携による静脈物流共同化プラットフォーム構築の問題、課題の掘り下げと効果測定、具体的な改善シナリオ検討

各委員会の活動報告について

5. 共通基盤整備委員会

1) 活動方針

環境会議の他の委員会活動に役立つ、情報資源を整える。

2) 活動成果

(1) コンテンツの整備、公開

用語解説、環境関連法規、環境関連リンク集をまとめ、ロジスティクス環境会議ホームページに掲載した。

(2) 研究会の企画開催

環境会議メンバー限定の研究会（14回）及びセミナー（2回）を開催した。

※詳細はP8を参照

(3) 環境報告書の実態調査

～物流の環境コミュニケーションのあり方～

2004年度版環境報告書（186社分）をレビューし、記載内容を評価するとともに分かりやすい記載内容を選定
<提言>

i) CO₂排出量を算定できるデータを早期に整備

ii) 他社の環境報告書を参考とし、改善に役立てる

iii) 物流部門が社外のステークホルダーに対し、環境負荷データを使ってコミュニケーションを行いたい場合、全社的な環境報告書とは別のレポートで、物流部門独自の情報開示を行うことも、将来検討すべき課題である。

これらの内容を『企業の環境報告書における物流の記載内容実態調査』としてまとめた。

6. 広報・普及専門委員会

1) 活動方針

環境会議の各委員会の活動経過、成果等を当会議メンバー及びJILS会員、さらには広く産業界、行政、団体等に対して啓発および普及するための情報発信を行う。

2) 活動概要

(1) CGLメンバーの環境負荷低減活動を支援する情報発信

i) CGLニュース（電子メール）

速報的内容として30回発行

ii) CGLジャーナル（冊子）

本誌含めて3回発行

(2) 各委員会のアウトプット等の普及啓発

i) 環境調和型ロジスティクス推進フォーラムの開催

（2004年12月17日、460名参加）

*グリーン物流パートナーシップ会議との連携

ii) ロジスティクス環境シンポジウムの開催

（2006年2月3日、137名参加）

*国土交通省の「商慣行の改善と物流効率化に関する基礎調査」事業との連携

※詳細はP8を参照

(3) 関連行政機関と関連団体との連携推進

グリーン物流パートナーシップ会議等の活動を中心に推進



ロジスティクス環境シンポジウム 開催報告

京都議定書の国別削減約束の達成に向けて、改正省エネ法が公布・施行される等、物流分野における環境負荷低減活動が不可欠となるなか、製造業・流通業・物流企業間の取引条件を見直すことによるCO₂等の環境負荷の低減、また、輸送コストや道路交通に与える影響に係わる認識を関係者で共有することを目的として、企画運営委員会（広報・普及専門委員会）主催による「ロジスティクス環境シンポジウム～取引条件の見直しによる環境負荷とコストの改善～」が2月3日（金）に開催され、環境会議メンバーを中心に137名の方が参加されました。

講演 1

「商慣行の見直しによる物流効率化、環境負荷低減～道路交通への影響を中心に～」

根本 敏則 氏（一橋大学 大学院 商学研究科 教授）

講演 2

「ミルクランの実施によるCO₂とコスト低減の取組み」

澤村 光一 氏（日産自動車株式会社 SCM本部 調達・生産物流グループ 主管）

パネルディスカッション

「環境負荷低減とコスト低減を実現するための荷主企業（発・着）と物流企業の連携」

<コーディネーター>

根本 敏則 氏（一橋大学 大学院 商学研究科 教授）

<パネリスト>

浜辺 哲也 氏（経済産業省 商務情報政策局 流通・物流政策室長）

大西 博文 氏（国土交通省 国土技術政策総合研究所 道路研究部長）

林 克彦 氏（流通科学大学 商学部 教授）

上山 静一 氏（イオン株式会社 環境・社会貢献部 部長）

田中 孝明 氏（株式会社サカタロジックス 代表取締役）

伊藤 誠 氏（プロクター・アンド・ギャンブル・ファーイースト・インク カスタマーロジスティクス グループマネージャー）



※当日の様子は、JILS機関誌「ロジスティクスシステム」2006年4・5月号に掲載予定です。

※役職等は講演時点のものです。

共通基盤整備委員会主催の講習会・研究会の開催報告

（2006年1月以降開催分）

講習会

第2回グリーンロジスティクス講習会

【2006年1月20日開催】（参加人数95名）

講演 1

「改正省エネ法—荷主判断基準について—」

須賀 千鶴 氏

（経済産業省 資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー部 省エネルギー対策課 企画調整一係長）

講演 2

「改正省エネ法—輸送事業者判断基準について—」

平澤 崇裕 氏（国土交通省 総合政策局 環境・海洋課 専門官）

研究会

第14回研究会

【2006年2月9日開催】（参加人数17名）

「自動車リサイクル部品について」

下村 博史 氏（(株)日本総合研究所 研究事業本部 上席主任研究員）

※2006年1月以前の講習会・研究会につきましては、CGLジャーナル No.2のP10をご参照ください。

※役職等は講演時点のものです。

